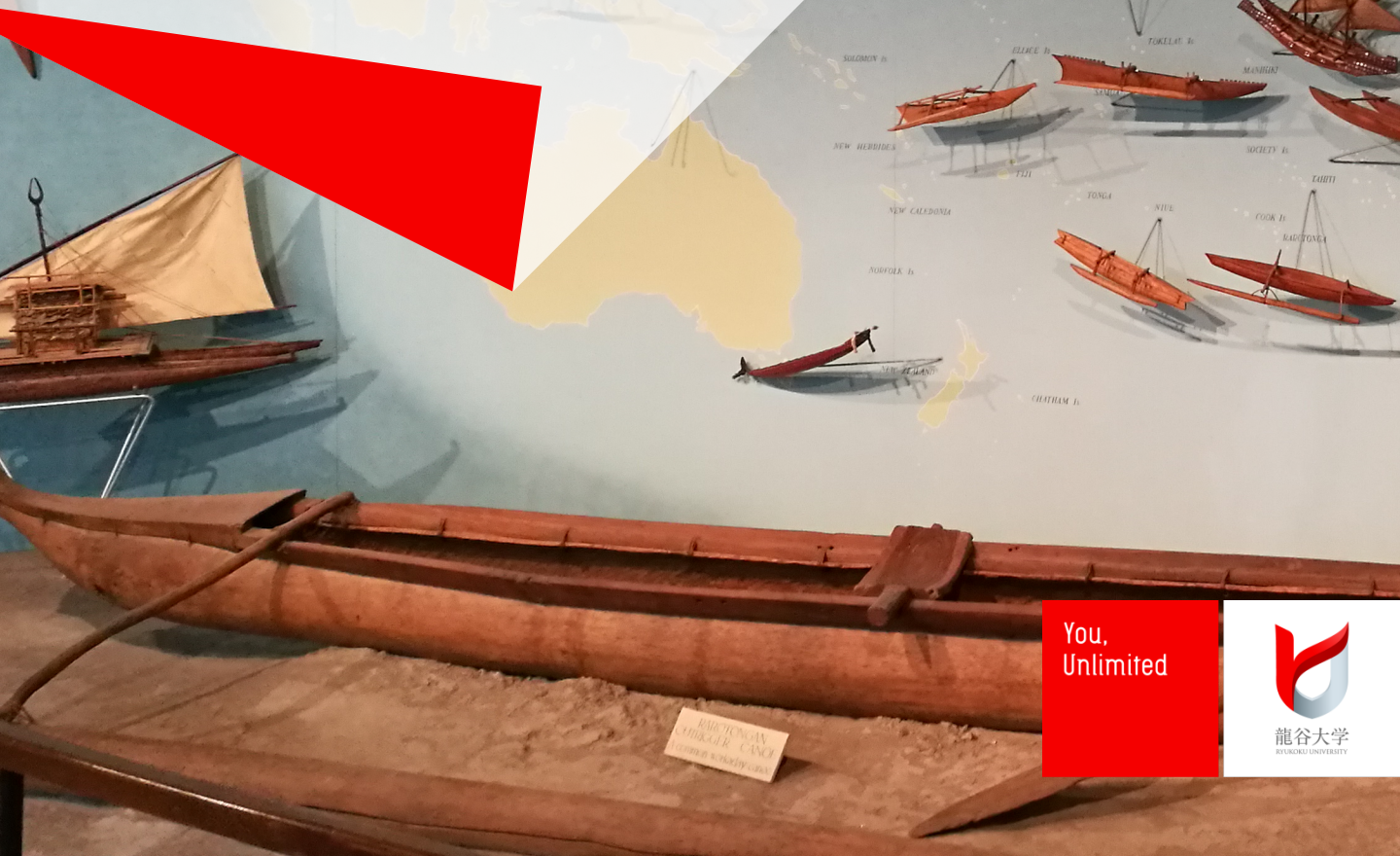


アフラシア多文化社会研究センター  
2018年度 研究会

PACIFIC

# 世界の先住民族と人権 フィリピン、オーストラリア、 そして日本



You,  
Unlimited



龍谷大学  
RYUKOKU UNIVERSITY

日時：2019年 2月18日(月) 13:30～16:30

場所：龍谷大学深草キャンパス 和顔館4階 会議室3

<報告者>

カイン・フクマン (ママヌワ族リーダー)

ラリー・ディロ (セントポール大学教授)

尾本 恵市 (東京大学名誉教授)

友永 雄吾 (龍谷大学准教授)

使用言語: 日本語、英語

お問い合わせ

龍谷大学アフラシア多文化社会研究センター  
(担当：人間・科学・宗教総合研究センター)  
HP：<https://afrasia.ryukoku.ac.jp/>  
E-mail：[afrasian@ad.ryukoku.ac.jp](mailto:afrasian@ad.ryukoku.ac.jp)  
TEL：075-645-2154

# 世界の先住民族と人権

## フィリピン、オーストラリア、そして日本

日時：2019年2月18日（月）13：30～16：30  
場所：龍谷大学深草キャンパス 和顔館4階 会議室3

司会：友永 雄吾（龍谷大学准教授）

報告1：尾本 恵市（東京大学名誉教授）

「世界の先住民と人権」

報告2：友永 雄吾（龍谷大学准教授）

「オーストラリア社会とアボリジニ」

報告3：ラリー・ディロ（セントポール大学教授）

カイン・フクマン（ママヌワ族リーダー）

「フィリピン最古の先住民族の現在」

ママヌワ族（Mamanwa）は、フィリピン南部ミンダナオ島北部の山岳地帯に数千人が残存する先住・狩猟採集民です。1978年より日本の調査隊による世界初の集団遺伝学的調査がおこなわれ、この集団がフィリピン最古の先住民（First People）の末裔であるとの仮説が発表されました。わが国で知られる機会の少なかった彼らですが、現在その固有言語や伝統文化は消滅寸前となっており、民族の存続があやぶまれる状況です。とくに近年は日本企業を含む鉱山開発により、一部のママヌワ世帯が低地に造られた村への移住を強いられ、健康や教育、コミュニケーション等の面での影響が憂慮されます。

このたびは、ママヌワ血縁者でもあるラリー・ディロ教授とママヌワ族のリーダーであるカイン・フクマン氏をお招きし、フィリピンの先住民が現在当面している問題を考えるとともに、世界の先住民が抱えている問題を考えます。それはわれわれが享受している現代文明を相対化して、その未来を考えるうえでも極めて重要なことであるはずです。

主催：龍谷大学アフラシア多文化社会研究センター

共催：龍谷大学 国際学部 友永研究室 <科学研究費基盤研究C「オーストラリアと日本における先住民族による流域資源保全に関する環境人類学的研究」（課題番号：16K03246）>